

## 宇都宮市立瑞穂台小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習内容の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいや振り返りで、授業の学びを自分の言葉で言語化し、学習内容の定着を図る。</li> <li>・朝の学習支援タイムで、基本的な学習内容の習熟を図る。</li> <li>・「家庭学習の手引き」を示し、家庭学習を習慣化し、学習内容の定着を図る。</li> </ul>	知識・技能は、市の平均を社会・算数では上回っていたが国語・理科では下回っていた。家庭学習については、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」と肯定的に答えた児童の割合は、学年で差異はあるものの、およそ市の平均と同じだった。
自ら問いを立て、学ぼうとする意識をもつことができる指導の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を見通して、身に付けた知識・技能を活用して学びが継続できるような展開を工夫する。</li> <li>・各教科の「見方・考え方」に着目させ、解決の手がかりを意識させるような展開を工夫する。</li> </ul>	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に答えた児童の割合は、学年によって差異があった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」と肯定的に答えた児童の割合は、5年生では市の平均を上回っているが、他の学年では下回っていた。
主体的・協働的に学び合うための授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの見えるノート指導を行い、課題を解決するための過程を整理させる。自分の考えを伝えるために、ノートを活用させる。</li> <li>・課題に迫るため、学習形態の工夫やICTの積極的活用を行う。</li> </ul>	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」と肯定的に答えた児童の割合は、5年生では高かったが、他の学年では平均か、平均以下だった。「パソコンを使って調べたことや自分の考えを伝えることができる。」と肯定的に答えた児童の割合については、3年生以上の学年で昨年度より大幅に増えていた

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学校では、学習に取り組む基本的な態度や習慣を身に付けるために、「よい子の学習のきまり」をもとに学習指導を進める。家庭では、保護者の理解を得ながら、家庭学習を通して学習内容の確実な定着を図る。さらに、自分の課題に向かって計画的に学習を進められるようにする。
- ・基礎・基本を定着させるために、めあてや振り返り・まとめを習慣化させる。また、朝の学習などで、既習事項の問題に取り組ませ、今までの学習を想起させ、確実に習得させる。
- ・「学習した内容を次の学習につなげることができる。」の肯定的割合の回答が市の平均より低かったので、主体的に学びに向かえるように、既習事項を生かした授業を展開するとともに、自力解決する場面と、友達と協働的に学習する場面を意図的に設ける。自分の言葉で伝えたり学習を振り返ったりすることで、学びを実感させるようにする。
- ・記述式の問題の正答率が低いので、自分の言葉で説明したり、自分の考えを書いたりする場を設定する。その際に、書き方を指導したり、友達と互いの文を推敲したり、自分の文章のよさを見つけたりできるようにするなど、指導の充実を図る。